

令和6年度社会福祉法人尾道さつき会尾道福祉専門学校  
学校関係者評価委員会 会議録

日時：令和6年10月11日(金)14:00～15:30  
場所：尾道福祉専門学校 203.4 教室

株式会社リクルート	ビジネスプロデューサー	加藤 茂博	
社会福祉法人蓬愛会 栃木介護福祉士専門学校	教務課長	武藤 清子	欠席
尾道市福祉保健部 高齢者福祉課	課長	柏原 美由紀	
全国老人福祉施設協議会	顧問	平石 朗	
尾道福祉専門学校	校長	邑岡 志保	
尾道福祉専門学校	教務主任	重岡 秀和	
尾道福祉専門学校	専任教員	金子 清美	オブザーバー
尾道福祉専門学校	専任教員	河田 信子	オブザーバー

1. 開会 校長挨拶

社会の変化に敏感に対応しながら、本会経年のご指摘を、また、尾道市高齢福祉課との協働でのイベント開催等の活動等、学校運営を行ってきた。新しい発想をいただき改善に向かっていきたい。この委員会にて皆様から多面的なご指摘をいただき、自分達の実践に繋げていきたい。

2. 報告事項

学校の現況、基本方針、教育活動等の現状と課題

2023（令和5）年度学校自己評価報告書・今年度事業計画半期状況報告から

1. 教育方針、学校運営

社会福祉法人運営の学校の特色の明確化、法人事業所との連携、入学者の現状、退学者の減少について説明をする。

## 2. 教育活動

地域に親しまれる教育内容として、見守り訓練等行っていった。企業の協力で身だしなみをテーマに学習に機会を設けた。ICT等の最新機器の導入研修を介護現場の方々を対象に行い、学生も参加した。

人材育成の観点から、学生個人の力量に合わせて履修の幅を広げていった。一人でも多くの卒業生を輩出することに貢献するようにした。その際の学費の考慮も検討した。

## 3. 学修成果

就職希望者は、全員福祉施設に就職している。個別の関わりをして学修しやすいように対応していった。

## 4. 学生支援

進路・就職に関する支援としては、個別面談を設け関わっていった。制度を活用しながらアルバイトをする学生も多く、学業に影響しないよう生活の見守りが必要である。

## 5. 教育環境

新たな教育機会を地域の方々との関わりの中からつくっていった。教室等学校内の整備は行き届き広く動きやすい環境を整えている。

## 6. 学生の受入れ募集

学校パンフレットを活用し、校内ガイダンス等に積極的に出向き、学校の魅力を伝えていく取り組みを行っている。オープンキャンパス等で来校する学生数の増加を図るように努めている。

## 7. 財務

厳しさは継続している。財務状況は今後も楽観できない。介護職のイメージアップを図りながら、現役高校生の入学者を獲得するための努力が必要である。

## 8. 法令等の遵守

専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営するよう努めている。

## 9. 社会貢献・地域貢献

久保地区での活動に学生が参加し地域の人々との交流を図った。その後も地区の活動に継続して参加する学生もいる。

## 質疑応答・意見交換

加藤様) 退学者の減少についての取り組みについて要因をどう考えているか。

重岡) 進路選択として、継続を選んでいる。

河田) 学校が好きである。

加藤様) 学生同士のつながりがよくなったからかと思われるがどうか。

重岡) 1年生の前期の試験で単位を落とすことがなくなった。

加藤) どう頑張るのか、指導はどのようにしているか。

重岡) 個別面談よくしている。保護者にも協力してもらうための面談を行っている。

河田) 他の教員と情報共有も行われているのが学生指導に効果が上がっていると思われる。

加藤) 教員間のチームワークがあり、いい状況であろう。教育環境としては良いと思う。個別面談では悪いところ以上にいいところを見つけてほめながら指導をしていくのがよい。学校の採算状況について、このままでは終われずより重い。現状理由は、(邑岡) 今年度の状況はよくない。全国的に同様傾向にある。高校3年の人口が1段階下がっている時期とのことである。大学進学率が増えている。外国人の留学生を検討する動きはすでに進んでいる現状が全国的にある。

重岡) 福祉科を選ぶ高校生が減っている。

加藤様) 幅広く学生募集をしていくことは有益であろう。人口減少が始まったのは、今年の高校3年生からである。これからをどうするかを考えなければならない。

#### 校長から学校運営のとりくみ

全国的に専門学校では留学生が増加傾向にある。学生数の推移、これまでの学内の取り組み(コンセプトの明確化、外部見識者との関わり、教職員の主体性)について説明する。新規事業の実施として、社会福祉法人立の学校の使命を考えていく。地域のニーズに応えるために事業を実施してきた。介護を楽しくおしゃれに発信したい。8月に実施したイベントで実現させ、介護の魅力を伝えた。

外国人介護人材育成プロジェクトを実施している。各施設からの反応が好評である。しかし、現地のニーズからしては時間がかかりすぎる課題がある。技能実習生に対する介護導入講習の実施、外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成事業の実施、外国人キャリアアッププログラムの検討を行っている。

終わりに、養成施設の変化の難しさ、人材確保のタイミングの難しさがある。

#### 意見交換

加藤様) 何もしなければ倒れてしまう。何かすることが大切である。長い目で見た時に、介護が尾道の大切な産業として、介護を残していくのか、尾道に住む人々にとってはどう考えているのか。どういう人に来てほしいのか、なくなったらどうなるのか、考えなければいけないことを考えていくこと。

柏原様) 介護の魅力発信イベントを今年度実施した。イベントの意味や意義への疑問視する意見があった。小中高校生への発信として、教育委員会ともつながり、介護が社会にとって必要なものであること、を発信し今後も継続していく。必要な介護職員の人数の明確化や投げかけを行っていきたい。市としてできること幅広く対応していく。

加藤様) 福祉業界の現状、一定数介護は必要である。変わらざるをえない現状である。介護に無関係な人はいない。介護に関することは人生の中では後半の時期である。その前に普段から考えられるように、つながりをつくっていく。それを応援するような働きかけがある。ポイントとして教えて介護に関わってもらわないと全国的には帳尻が合わない。外国人だけではなく、日本人へのことを考えていくこともいる。保険の外に踏み込んでやっていけるのか、学校の質は向上したが、本質的な問題に向

き合わなければならない。

平石理事長) 入国時の学校の働きをよく行っている。現場の疲弊の現状について、行政の使命としての動きに期待したい。

### 3. 閉会

校長挨拶

貴重なお意見をいただきました。継続して検討課題に向き合っていく。